

受賞者のご挨拶

株式会社 秋田病理組織細胞診研究センター

代表取締役 阿部 一之助 様



この度、元号が令和に移った記念すべき年に秋田経済に精通されておられる有識者の方々から評価され、「中小企業振興表彰」に選出頂きましたことはこの上ない光栄であり、社員にとっても大きな自信・励みになりました。社員を代表いたしまして心より感謝申し上げます。

【地域医療を目指して】

当センターは、「患者中心の医療！その一員として」をテーマに地域医療のお役に立ちたいと考え、平成15年3月、由利本荘市に「登録衛生検査所」として、また秋田県ベンチャー企業の申請を受け開業し第一歩を踏み出しました。26年5月、業務拡大に伴い秋田市雄和に新社屋を構え、今年で設立から16年目を迎えました。

【会社概要】

社員は病理医1名、細胞検査士6名、臨床検査技師3名、技術員8名、事務員4名の22名。非常勤として病理医10名、細胞検査士5名の15名。総勢37名で診断業務を行っております。

顧客は秋田県が中心でしたが、現在では青森、山形、岩手、東京の345施設(病院32施設、クリニック309施設、検診センター4施設)まで広がりました。

依頼検体数も年々増加し、平成30年度は、病理組織診断約28,000件、細胞診断約80,000件でした。

【業務内容】

主な業務は、①病理組織診断、②細胞診断、

③遠隔手術中迅速診断で3部門に分かれています。

①「病理組織診断」は、病理医が診断します。胃内視鏡や大腸内視鏡などで採取した小さな組織片を調べ、良性腫瘍か悪性腫瘍かを診断します。悪性腫瘍だった場合は手術を行い、その後手術により摘出した臓器を詳しく検査し、早期癌か進行癌かを診断します。この診断が治療方法の指針となっていきます。

②「細胞診断」は、細胞検査士(臨床検査技師)が担当します。子宮がん検診や乳がん検診などで採取した細胞の中に癌細胞や疑わしい異型細胞が含まれていないかを診断します。また、喀痰の中に肺がんの細胞、尿の中に膀胱癌の細胞が含まれていないかも調べます。

③「遠隔手術中迅速診断」は、一度の手術で癌を取りきるための方法で、病理医がいない病院を対象に行われます。

まず依頼のあった病院の臨床検査技師(いない場合は出向く)が、手術中に摘出した臓器の「切除断端」の標本をその場で作製します。それをネットワークで結んだ画像転送システムを使用して当センターの病理医が診断し、癌組織の取り残しがないことを確認する診断業務です。

現在、県内外5病院と契約を結んでおり、年間200件以上の依頼を受けております。

【唯一無二】

開業時、全国に同様の病理診断センターは約150施設あり、それぞれオリジナリティーを前

面に出し顧客獲得にしのぎを削っている時代でした。当センターが秋田に根ざした地域医療を掲げても顧客獲得は困難が予想され、この競争を勝ち抜かなければならない現状にありました。

しばらく悩みに悩み、ひらめいたのが報告書に写真を添付したらどうかということでした。早速、他のセンターの報告書を検索しましたが写真を報告書に添付している施設は見当たりませんでした。県内で開発に協力してくれる会社を探し出し、試行錯誤を繰り返して何とか独自のソフトを開発しました。

こうして全ての報告書に診断の根拠となった組織像や細胞像の「カラー写真」を添付することができたのです。それにより依頼医からは「診断が理解しやすい」、「患者に説明しやすい」など評価が高く、受託病院、クリニックの増加に繋がっています。このソフト無くして今の会社はなかったといっても過言ではありません。

#### 【カンボジアからの依頼】

カンボジアは新興国で貧富の差が大きく、富裕層を中心に年間20万人以上の国民がシンガポールなど近隣諸国へ高度な医療技術を求めて出国しているのが現状です。そんなカンボジア医療に対し、政府が設立を支援している商社日揮と北原国際病院が設立した合弁会社「サンライズ・ジャパン・ホスピタル」が2015年に開院し、救命救急センターと健康診断を含む日本の水準の医療サービスの提供を開始しました。

ただ、現地では病理診断技術が追いついていない実情がありました。正しい診断には臨床医だけでなく、病理医による確定診断が欠かせないため、独自性があり写真を添付している当センターに白羽の矢が立ちました。現在、空輸で月10件前後の手術摘出臓器が依頼されます。

当センターで診断された「秋田県とカンボジアの早期大腸癌の比率」を比較したところ、秋田県46%、カンボジア5%でした。この結果は検診事業の重要性を表しています。

#### 【写真を活用しAI開発】

報告書に添付して保存されている写真は、今や約70万枚の膨大な数に上り、この写真を利用した新たなソフト開発が提案されました。

人工知能がこれらの写真から正常細胞と異常細胞を学習し、コンピューターが細胞診断を行う事を可能なものにしてという試みです。

もし現実になるならば、細胞検査士のいないカンボジアのような国でも診断が可能になるということです。早期癌発見や検診を広めていくために大いに力になりうると期待しています。

#### 【地域に根ざして】

みなさんもお存知のように秋田県は残念ながら都道府県別がん死亡率ワーストです。正確で迅速な診断に務めるとともに検診の重要性も伝え、受診率を高めることが何より重要です。

私たちは患者さんと直接相對する事はありませんが、依頼書の裏の患者さんの声に耳を傾けながら、今後も診断業務に邁進して行きたいと思っております。

この度の受賞にあらためて感謝申し上げますとともに、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

#### (会社概要)

事業内容	病理組織診断、細胞診断業務
設立	平成15年3月
資本金	2,500万円
従業員数	37名(非常勤15名を含む)
売上高	2億6,500万円(平成30年9月期)